

地方創生のプレミアム商品券の
一つとして4月に発行された小
松、能登一羽田便の旅行商品券の
売れ行きが、小松は発行枚数の66
・9%で、能登は41・1%にとど
まっていることが13日、県への取
材で分かった。1人5千円の割引
で、小松便は白山市と川北町で完
売したが、能登便は七尾市で苦戦
している。県は、北陸新幹線金沢
開業の地域ごとの影響を分析する
指標の一つにもなるものとみており、
市町は夏休みの家族旅行での利用
も呼び掛けていく。

小松便の旅行商品券の発
行数は1万50枚で、7月12
日時点で6724枚が売れ
た。販売対象は金沢市以南
の7市町で、販売数が最も
多いのは金沢市の2703
枚、次いで小松市の144
2枚となった。
ただ、発行数に対する販
売済みの比率(販売比率)
は、金沢は54・1%で小松
便全体の平均より低く、県
空港企画課の担当者は「小
松までの移動時間などを考
えた結果、金沢では新幹線
を利用している人が多いとい
うことだろう」と話す。
750枚ずつ用意した加
賀、能美、白山の3市は、
販売比率がいずれも90%を
超えている。
一方、能登便は、発行予

羽田便旅行券売れ行き

小松66% 能登41%

新幹線の影響で地域差
白山完売、七尾は苦戦

定数5400枚のうち22
20枚が販売された。金沢
市以北の13市町が対象で、
販売比率が50%を超えたの
は高い順に志賀町、中能登
町、珠洲市となっている。
内灘町以北で最も人口が
多い七尾市は1050枚の
発行に対し、186枚しか
売れておらず、販売比率は
17・7%となった。
七尾市観光交流課の担当
者は「七尾からは能登空港
と金沢駅までの移動時間が
ほぼ同じなので、運行本数
が多い新幹線に人気が集ま
っている」と話す。全線開
通した能登自動車道七尾水
見道路を利用し、新幹線の
新高岡駅まで移動し、乗車

小松、能登一羽田便利用旅行商
品券 小松一羽田便、能登一羽田
便を利用する旅行商品に
使用でき、4月6日に販
売が始まった。旅行商品
の販売価格(税込み)が1
人当たり2万円以上であること
や、原則として往復利用が条件と
なる。国は2014年度補正予算
で4200億円の「地域住民生活
等緊急支援交付金」を計上し、この
うち「地域消費喚起・生活支援型」
の2500億円が商品券や旅行券
の発行などに充てられている。

小松、能登一羽田便利用の 旅行商品券の販売状況

小松一羽田便 (7月12日現在)

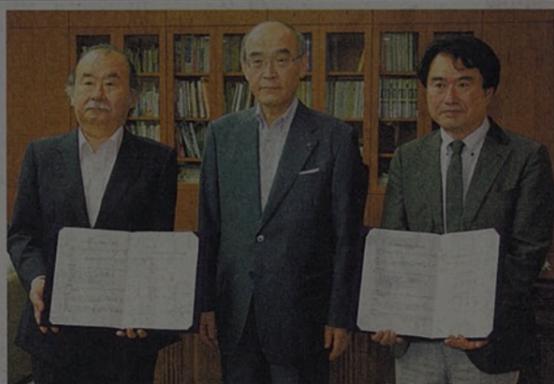
市町	発行枚数	販売枚数	販売比率
金沢	5,000	2,703	54.1%
小松	2,000	1,442	72.1%
加賀	750	691	92.1%
能美	750	684	91.2%
白山市	750	750	100.0%
野々市	750	404	53.9%
川北	50	50	100.0%
合計	10,050	6,724	66.9%

能登一羽田便 (6月30日現在)

市町	発行枚数	販売枚数	販売比率
輪島	1,650	747	45.3%
七尾	1,050	186	17.7%
能登	750	361	48.1%
珠洲	550	321	58.4%
穴水	500	201	40.2%
志賀	250	173	69.2%
中能登	200	119	59.5%
羽咋	150	48	32.0%
宝達志水	100	28	28.0%
金沢	50	18	36.0%
かほく	50	9	18.0%
津幡	50	6	12.0%
内灘	50	3	6.0%
合計	5,400	2,220	41.1%

5社に認定証交付 プレミアム石川製品

県の「プレミアム石川ブ
ランド製品」認定証交付式
は13日、県庁で行われ、市
場での成長が期待できる製
品を開発した5社の代表
写真に谷本正憲知事が認
定証を手渡した。
中小企業が開発した優れ
た製品の販路開拓を支援す
る「石川ブランド製品」の
うち、特に有望なものを選



県と協定を結んだ
京都女子大の林学
長(左)、神奈川大
の石積学長(右)
＝県庁

Uターン協定締結

県と京都女子、神奈川大

県は13日、京都女子大、神奈川大と県内就職支援に
関する協定を結ん
だ。今後、両校に
進学した県出身者
向けに地元企業の
情報提供や学内
での就職セミナー開
催で連携し、石川
へのUターン就職
を促す。県は人口
減少に歯止めを掛
ける狙いで、中小企業の人
材確保にもつなげる。
県庁で行われた締結式
で、谷本正憲知事と林忠行
京都女子大学長、石積勝神
奈川大学長が協定書を取り
交わした。県の協定先は、
立命館、龍谷、東海大に加
えて5校となった。
谷本知事は、県内高校か
らの進学者の6割が県外大
学を選び、その4割が県外
で就職しているとの調査結
果を示し、「これまでは県
外に進学した時点で石川の
企業情報が届かなくなっ
ていた。協定はお互いに利益
のある関係につながると思
う」と期待した。
協定締結により、大学側
にも就職率向上や保護者か
らの支持拡大、県内入学者
の獲得などが期待できる。
林学長は北陸新幹線開業で
北陸と東京が近くなったこ
とに危機感を示し、「北陸
は学生募集の重要地域だ。
協定により、Uターン就職
とともに進学者の増加にも

フル回転

経済産業省出身の石山裕一課
長(31)が着任し、いきなり3
件の知事公務で進行役を務め
る「フル回転」の
スタートとなっ
た。

石川がいいと思っていた」と語る。
この日は辞令交付の直後に、知事室
を訪れた国際青年会議所の会頭に英語
で語り掛けたり、大学との就職協定で
は「知事こそそう」と時間
が来たことを伝え、谷本正
憲知事に嫌な顔をされたり
をこなし、本人は「資料を読んだだ
け」と謙遜する一方で、「県のために
しっかり頑張りたい」と意欲も見せていた。(藤)

県は13日、飲食店経営者に
よる外国人観光客の受け入れ
態勢研究会で写真Ⅱを発足さ
せた。北陸新幹線金沢開業に
よる海外からの訪問者が増え
る中、県の外国人アンケート
では飲食店で意思疎通に苦労
するとの声が多くなってお
り、官民協働で多言語メニュ
ーの充実など対策に乗り出
す。
飲食店経営者

外国客対応を研究



「多い時は9割」「予約電話も英語」
「多
い時は客の9割が外国人(カ
フェ)」「売店でクレジット
カードを利用し、お土産を大
量に買う客が増えた」「(高速
道路SA)など話した。
一方、「英語で予約の電話
があり、対応に時間が掛かっ
た(和食)」「サービス料、
テーブルチャージの説明が伝
わらない(割烹、バー)な
どの悩みもあった。「ミート
ソースを食べた外国人客に豚
肉アレルギーが出た。母国で
は牛肉しか使わないうら
い、店は合いびき肉を使って
いた(カフェ)」と、食文化



写真右端：弊社高橋専務